



第25号



発行：

能勢町民生委員児童委員協議会
（略称 民児協）会長 乾谷 晃

編集：広報部会

事務局：

能勢町福祉部福祉課福祉担当
大阪府豊能郡能勢町栗栖 82-1

Tel 072-731-2150

Fax 072-731-2151



山辺神社の獅子舞
大阪府の無形民俗文化財に登録
2025年大阪・関西万博へ参加予定

能勢町民児協スローガン

「里山の
暮らしによりそう 民生委員」

大阪府民児協
公式キャラクター
ミンジー



【主な内容】

- 会長あいさつ
- 各部会の活動
- 編集後記
- 町長あいさつ
- 「地域の担い手」紹介

里山の暮らしによりそう 民生委員



会長
乾谷 晃

表題は、令和4年12月1日、民生委員の一斉改選に合わせて策定しました能勢町民児協スローガンであります。このスローガンの趣旨による委員活動をめざしています。

次期一斉改選まで8カ月となります。全国的に民生委員の担い手不足が顕著化し、次期改選を控えますが、能勢町では1名の欠員であり、次期改選では定数を充足することを最優先に努めたいと思います。これには民生委員の意識向上と周知活動に努めてまいります。

令和6年度は、災害時要支援者名簿の更新にあたって、全世帯に調査をお願いしました。

災害時の避難行動については地域と連携のもと、民生委員の活動内で取り組みたいと思います。

今年は団塊世代の全てが75歳に達するにあたり、民児協では、「地域福祉部会」を「高齢者・地域福

祉部会」と部会名を改称し、より高齢者に寄り添った事業に取り組んでまいります。

民児協は、今に則した民生委員活動を皆様のご支援のもと充実させていきたいと思っております。

今後とも、皆様とお話できることに委員一同努めてまいりますので引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ



能勢町長
岡田正文

民生委員・児童委員の皆様におかれましては、平素より地域住民の立場に立つて、生活や福祉に関する相談や援助を頂いておりますことを、改めて心からお礼申し上げます。引き続き、お住まいの地域において高齢者や子どもたちの見守り、行政をはじめ関係機関への「つなぎ役」としてご活躍いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて少子・高齢社会を迎え人口減少に歯止めがかからない日本社会において、本町においても例外

なく、担い手の高齢化が現実のものとなっております。

一方で、核家族化の進行なども相まって、地域のつながりはますます希薄化しており、課題は山積しています。本町といたしましても課題解決に向け行政が果たすべき役割において、着実な取り組みに努めてまいります。

とりわけ、民生委員・児童委員の皆様が活動しやすい環境整備に向け努力を惜しまない所存でございます。

今後とも「誰一人取り残さない社会」の実現のため、皆様の深いご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶いたします。



各部会より



総務企画部会

令和6年度 研修会

「災害関連死を防ぐには？」

「近年の被災地の事例から考える」



総務企画部会の令和6年度事業である研修会を11月15日に開催しました。大阪大学大学院准教授の宮本匠先生をお招きし、「災害関連死を防ぐには」近年の被災地の事例から考えるをテーマに講演会及びワークショップを行いました。

災害「後」の防災について、能勢町で災害が起きた時に、どのような災害関連死が起きる恐れがあるか？どのようにすれば防ぐことが出来るのか？をテーマに、大阪大学の学生さんや、能勢町のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）の方にも参加していただき、グループに分かれて話し合いました。

物理的な防災はもちろん、避難訓練も重要ですが、それだけでは救えない命もある。災害関連死は物的被害だけでなく、被災者の心理的な負担や孤立が大きく影響している。そして、地域住民同士のつながりを強化し、孤立を防ぐことが、災害時の命を守る上で非常に重要であることを学びました。

今回の研修会を通じて、民生委員・児童委員が地域住民の孤立を防ぎ、人々のつながりを深める上で重要な役割を果たせることを改めて感じました。

高齢者・地域福祉部会

福祉マップ更新

昨年5月から「高齢者・地域福祉部会」と部会名称を改め、より一層高齢者の方々と寄り添うため活動しております。

昨年は福祉マップの更新作業がありました。福祉マップは、要支援者名簿とマップで構成されており、平常時より災害時に備えて、要支援者の把握につながるものです。

地区の皆様方には、福祉マップ調査票のご記入・提出にご協力を頂き、ありがとうございました。

ふれあいフェスタ



令和6年度は輪投げを行い、子どもから大人まで楽しんで頂ける景品を用意しました。お天気にも恵まれ好評でした。

準備をしながら会話も盛り上がり、親睦が深まりました。委員同士の風通しが良くなると、部会の活動もスムーズになり、活発に行事に参加でき、その結果皆様のお役に立てる、それが私たちの理想です。

児童福祉部会

子育てサロン「にこにこ」

児童福祉部会は主に子育てサロン「にこにこ」で乳幼児の子育てを支援している部会です。生後4～5カ月から就学前までのお子さんと保護者が集まり、歌ったり、紙芝居を見たり。季節ごとに節分の鬼のお面やひな祭りの飾り、鯉のぼりなど昔懐かしい行事に触れながらの工作。夏には「さとおか防災コミュニケーションセンター」での水遊び。秋には

歌垣天満宮でのミニお散歩。イチヨウの葉やどんぐり拾いをして楽しく遊びました。

令和5年度は常時10名前後のお子さんが参加されていましたが、令和6年度は保育園や幼稚園に入園されて5名前後になり、残念ながらことに少し寂しいサロンになっています。少子化の波が「子育てサロン」にも押し寄せてきています。

それでも子ども



もたちは、のびのび、すくすくと育ち、ハイハイをしていた赤ちゃんが歩き出し、1年すると走り回る姿を見ると、育児のお手伝いが少しはできているかな？と喜びを感じています。



主任児童委員部会

ささゆりフェスタへの参加

主任児童委員は、能勢町地域学校協働本部に参画しています。協働本部は、「行事環境部会」「学び支援部会」「生活広報部会」に分かれ活動しており、主任児童委員も学習支援や行事支援、登下校の見守りなど様々な活動に参加しています。

11月16日は、能勢町立能勢ささゆり学園で『ささゆりフェスタ』が開催され主任児童委員の担当ブースでは「物づくり」と題し、小さなビーズを使って、ブローチやブレスレット、クワガタ虫などを作りました。子どもたちは小さなビーズを手に取り、細かい作業を真剣に取り組み、出来上がった時は、達成感あふれる笑顔で、見ている私たちも笑顔になりました。

能勢町で育つ子どもたちを、これからも支援していきたいと思っています。



広報部会

啓発活動・ポスター

広報部会では民生委員児童委員活動を多くの方知って頂けるよう、広報誌発行を中心に活動しています。その中で、タイムリーな情報をお届けするため、令和5年度より「ミニ活動報告」を町のホームページに掲載しております。また5月の「民生委員・児童委員の日」に、広報部会主催で歌垣地区（野間の大けやき）、田尻地区（田尻農産）、久佐々地区（観光物産センター）、岐尼・天王地区（ノセボックス）、東郷地区（能勢けやきの里）の5カ所で一斉啓発活動として、パンフレットとウェットティッシュを配布しました。

また令和6年度は、ポスターを作成し、各地区の公民館・自治会館・主要施設等に掲載をお願いしました。



能勢町の「地域の担い手」包括・社協！

少子高齢化やそれに伴う人口減少が進み、核家族化や高齢者独居世帯が増加し、地域から孤立する方が増えてきている中で、民生委員以外にも地域のつながりづくりのために活動する「地域の担い手」がいます。今回は、同じ「地域の担い手」である、能勢町地域包括支援センター（包括）、能勢町社会福祉協議会（社協）をご紹介します。

能勢町地域包括支援センター（包括）

☎072-731-2160

「終の棲家は能勢町で」と思ってもらえる地域づくりを目指し、高齢者の総合相談窓口として、関係機関と連携を図りながら問題解決に努めています。事業では、いきいき百歳体操やオレンジカフェの後方支援、緊急通報装置の設置やケアプラン作成、虐待対応等を通して、住民同士のつながりの強化や介護予防に取り組んでいます。困ったことがあれば遠慮なく相談してください。支え合い暮らし続けられる能勢町をめざし頑張っていきます。



能勢町社会福祉協議会（社協）

☎072-734-0770

社会福祉協議会は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。能勢町社協では気軽に住民が集い・多世代が交流できる「地域あつまろうよ事業」を実施しております。旧小学校単位で地域のボランティアさんの協力のもと、寒い季節には豚汁と焚火、暑い季節にはアイスコーヒーを用意し、地域の皆さんとの交流の場を作っています。開催日時等については社協だより等でお知らせしています。お気軽にお立ち寄りください。



編集後記

コロナ禍が終わり、民児協でも様々な行事が再開されました。令和6年度は災害時に備え、福祉マップ更新の調査も行われ、見守りの充実など活発な活動が行われています。また、今回はいつもお世話になっている、包括と社協の方々を紹介させていただきました。お忙しい中、原稿の執筆にご協力いただきありがとうございました。

【広報部会】